

発行所

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL http://jbwf.jp

沙羅の樹

Saranoki

No.7

2017年春号
4月10日発行



二月六日(月)平成二十九年新年修正会がシャングリラホテル東京にて厳修されました。
第一部、公益財団法人全日本仏教尼僧法団川名観恵理事長御導師のもと、尼僧法団有志により修正会法要がとりおこなわれました。厳肅の中に荘厳で真に新しい年の始まりに心が引き締まる思いでございました。

平成29年新年修正会開かれる

次に、加用稔子副会長とともに仏婦の信条を唱和し、東伏見貝子会長の挨拶と続きました。会長は『一日一回は笑顔忘れずに』と機関誌「全佛婦」新年号の年頭のあいさつに書きましたが、実行されていますか。』と問いかけられ、特に人工知能への期待と危惧等、現代の様々な話題や問題点などに触れ、私たち仏教婦人のあるべき姿をわかりやすくお示しく下さいました。

引き続き、公益財団法人全日本仏教会久喜和裕事務総長様から「お寺を明けることの多い住職に変わって檀家の皆様と接して頂いている奥様の役割は重要である。全日本仏教婦人連盟のさらなる社会貢献と発展を祈念いたします。」



最後に、公益財団法人全国青少年教化協議会主幹神仁様へ里親基金を贈呈させて頂きました。神様は「インDの子供の教育支援を十五年にわたり継続され、子供たちの中から教員になったり医学生が出たりしている。教育を全く受けるチャンスのない子供たちが皆様の蔭で社会的に成功する機会を与えて下さり誠に感謝を致しております。」と御礼のご挨拶を頂きました。

第二部では、東京芸術大学を卒業され、浄土宗芸術家協会会員であり、宇和島文化大使を務められ増上寺仏教成人大学講師も務められている中村仁樹様の尺八

と琴とピアノのコラボの優雅な演奏会が行われました。念法真教務総長桶屋良祐様の乾杯のご発声のもと懇親会に移り、日頃仏教婦人連盟の活動にご理解、ご協力を頂いておりますご来賓の方々にご挨拶を頂きました。

最後に静岡県有志の方々の先導で、仏婦の歌を斉唱した後、末廣久美理事長より謝辞を申し上げ厳かな中に盛会に終了させて頂きました。

本多端子



私たちの活動報告

各事業にご賛助及びご協力をいただき、ありがとうございます。

▼賛助金にご協力の方々

浄土真宗東本願寺派 慈眼寺 可睡齋 天王寺

▼福祉事業にご協力の方々

末廣久美 日比野郁皓 木南鈴子 佐々木公子 河原時子 岩脇孝子 松井百合子 本多端子 天王寺

▼花の種運動にご協力の方々

後藤陽子 岩脇孝子 鈴木トヨ子 善照寺 木南鈴子 可児光永 末廣久美 鷹司誓玉

▼タオル運動にご協力の方々

河原時子 岩脇孝子 天王寺

▼「全佛婦」誌代にご協力の方々

長尾節子 河原時子 後藤陽子 上原桂子

▼その他ご寄贈協力者

大和証券 大本山護国寺 長尾節子

▼写経運動にご協力の方々

【天王寺写経会】

【宝光院】

猪瀬三枝子 金澤昌子 金井佐久子
浜野福貴子 中澤恵子 押山ゆりか
大橋聡衣 柘澤元子 大橋百合子

【新豊院】

海野充子 小久保民江 植松園子
望月みや子 出雲義樹 出雲君美子
花田照子 花田まさ子 篠田節子

【貞善院仏教婦人会】

山本智枝子 新村悦子 芹澤好美
井口未自 井口隼太郎 井口晋之介
関富美子 山口有美 服部美紗代

【事務局】

木南鈴子 花岡真理子 海老塚るり子
村上和之

(順不同・敬称略)

お知らせ

平成29年度総会

【日時】6月8日(木) 11時から
【会場】大本山池上本門寺
東京都大田区池上1-1-1

日蓮宗の大本山でもあります池上本門寺様を参詣し、総会を開催いたしたいと思っております。会員にとりましては年一回の大事な総会です。*詳細につきましては、後日ご案内いたします。

1月 1日 「全佛婦」124号発行

16日 阪神淡路大震災23回忌連夜法要(大本山須磨寺)

18日 第7回役員会(天王寺)・第102回文化講座(谷中七福神めぐり)

19~23日 日本寺竺主晋山奉告法要参列(インド)

23日 (公社)日本仏教保育協会新年懇親会(ザ・プリンスパークタワー東京)

26日 世界連邦日本宗教委員会

(一社)日本国際文化協会合同新年懇親会(明治記念館)

30日 (公財)全日本仏教会新年懇親会(ザ・プリンスパークタワー東京)

2月

6日 新年修正会(シャングリラホテル東京)

22日 第8回役員会(天王寺)・第103回文化講座

24日 内閣府立入検査(事務局)・「沙羅の樹」編集打合せ

6日 (公財)国際仏教興隆協会第18回理事会(増上寺会館)

8~10日 花の種発送作業(天王寺)

9日 第11回理事会(天王寺)

22日 (公財)全日本仏教会第3回支援検討会議(明照会館)

30日 (公財)仏教伝道協会会長沼田智秀師葬儀(築地本願寺)

3月

平成29年度事業計画

平成29年

4/1 (土)	「沙羅の樹」7号発行
4/6 (木)	第30回花まつり(大正大学キャンパス内)
4/19 (水)	第104回文化講座「一貫張り」講習会 【講師】田中麗子先生
5/10 (水)	監査会
5/17 (水)	第12回理事会
5/17 (水)	第105回文化講座【奈良仏教セミナー①】薬師寺と東大寺 絢爛たる仏教文化 ~奈良仏教セミナーを前に~ 【講師】丸山弘子先生
6/8 (木)	第5回総会(池上本門寺)・第13回理事会(池上本門寺)
6/30 (金)	第106回文化講座【奈良仏教セミナー②】奈良古寺めぐり(薬師寺・東大寺)
7/1 (土)	「全佛婦」125号発行
9/13 (水)	第107回文化講座【テーマ】いのちについて(仮題) 【講師】塩田亮乗師(法善院住職)
10/1 (日)	「沙羅の樹」8号発行
10/18 (水)	第108回文化講座 映画上映会『うまれる』 10月下旬 東日本被災地訪問(石巻)
10/31 (火)	第59回静岡県仏教婦人会三ヶ日大会(浜松)
11/6 (月)	第64回全日本仏教婦人連盟大会 会場:東京プリンスホテル
11/17 (金)	第109回文化講座【テーマ】日常生活の中の瞑想 【講師】スマナサーラ長老(テラワダ仏教協会)
12/11 (月)	第29回成道会の集い(有楽町朝日ホール)

平成30年

1/1 (月)	「全佛婦」126号発行
1/未定 (未)	第110回文化講座 青年僧と語らう
2/未定 (未)	新年修正会
2/未定 (未)	第111回文化講座(写経会)
3/未定 (未)	第14回理事会
3/未定 (未)	花の種発送作業

今年度の『文化講座』も様々なテーマで開催致します。皆様のご参加をお待ちしております。

東日本大震災支援

今こそ求められる被災地の子どもたちの支援

(公財)全国青少年教化協議会
主幹・常任理事 **神 仁**

東日本大震災から6年余りが経ちました。被災した東北三県の沿岸部では土地のかさ上げ工事が進み、以前とはまったく異なる町の基礎が少しずつ姿を現しています。しかしながら、災害復興住宅の完成は福島県では6割程度に止まっており、仮設住宅で息を潜めながら生活をしている子どもたちも未だにいます。

また、震災後の離婚により経済的困窮状態にあるシングルマザーの家庭も増加しています。そこには、未婚のまま予期せぬ出産を余儀なくされている若い母親たちの姿もあります。

震災を体験した子どもたちこのころの問題も深刻です。

5年前の3月11日に石巻市立大川小学校で起こった出来事をご記憶の方も多いことでしょう。北上川の河口からおよそ4キロの川沿いに位置する大川小学校では、川を遡って来た津波によって、全校児童108人の7割にあたる74人が死亡、行方不明となりました。10名の教職員も子どもたちと共に犠牲になっています。

津波が襲った際に裏山に這い上がり九死に一生を得た生徒もいます。Aさんはその中の一人で、現在、地元の公立高校の3年生になっています。セーラー服

を着た彼女は、外見上は他の同級生と異なることはありません。しかし、震災後にPTSD(心的外傷後ストレス障害)を発症し、6年余り経った今も言葉を発することができないままです。Aさんと同じように、地震や津波を経験した子どもたちの多くが、トラウマ(心的外傷)を抱えながらも必死に日常生活を生きていることを私たちは忘れてはなりません。

貧困の格差も、時が経つにつれて深刻になってきています。全日仏婦と全青協では、2013年から「あおぞら奨学基金」を立ち上げ、被災した東北三県において、貧困状況にある子どもたちを対象に、返還義務のない奨学金を供与してきました。大川小学校出身のAさんも、あおぞら奨学生

の一人です。最近、応募者の中に目立

つのは、震災後離婚をしたシングルマザーの家庭の子どもたちです。多くの家庭の世帯年収が200万円を下回っており、なかには50〜60万円という生活保護水準以下の家庭が少なからず見られます。子どもたちは、学用品や通学定期券を購入することもままならず、経済的な貧困状態の中で日々喘いでいます。このような状況を、全国の方々が知る機会はほとんどないことで

しょう。「あおぞら奨学基金」では、現在、多くの方々の支援を得て、およそ400名の被災地の公立高校生に毎月1万円の奨学金を供与させていただいています。子ども

もたちからは、「これで学校を中退せずに済みます」「修学旅行に参加することができそうです」「大学進学をめざすことができます」といった声が毎年届いています。わずか月1万円の奨学金ではありますが、これによって子どもたちは夢をあきらめずに繋ぐことが出来ているのです。

被災地が復興したと言えらるには、まだまだ長い時間が必要で、多くの支援団体が撤退する中で、私たちが支援活動はより一層子どもたちから求められています。被災地の子どもたちの未来を共に紡いで参りましょう。

あおぞら奨学基金ご協力をお願い

毎月の募金 頑張る生徒を応援する「奨学生サポーター」

- ◆1ヶ月1万円の支援金によって、1人の奨学生をサポートいただきます。
- ◆ご友人・団体様でのグループ支援も可能です。例えば、4人では2,500円、10人集まれば1,000円で支援できます。
- ◆サポーターのみなさまには、奨学生から年間2回のお便りが届きます。さらに年間1回、奨学生の成長記録をお届けいたします。

任意の募金 「あおぞら奨学基金」事業を応援する

- ◆任意の金額を募金いただけます。
- ◆募金は奨学基金事業のほか、東日本大震災によって困難を抱える生徒を支援する活動に充てられます。

【問い合わせ】 ☎ 03-5772-0677



文化講座のご報告

第102回文化講座

谷中七福神巡り

2017年1月18日(水)
講師：川崎晴喜氏

のが印象的でありました。

一行は、寒中にもかかわらず、次に、護国院の大黒天様(富財)へと足どりも軽く進ませて頂きました。快く出迎えて下さった護国院の寺院様に対応に一行は、嬉しく感謝しながら中へ上からせて頂き、柔和な大黒様を拝ませて頂きました。

そして、今回最後は、七福神の中で紅一点の愛敬で知られる弁財天様のお祀りしてある不忍池弁天堂でした。

参加者一同は、七福神がそれぞれお持ちの七福徳を頂き、明るい楽しい生活がおくれるよう祈りながら、それぞれの寺院で頂いたご朱印を胸に、心あたたまる思いで帰路につきました。ご案内下さいました川崎様、本当にありがとうございました。

桶屋良法



「谷中七福神巡り」に際し、江戸の文化を愛してやまないという、頭に手ぬぐい、絆纏羽織った町人姿の川崎晴喜さんが、軽妙洒落な語り口で、楽しく七福神の夫々の御徳を語って下さいました。

講義終了後は、実際に谷中七福神巡りを提灯片手に案内して頂きました。

まず最初は、常日頃会場となっている谷中天王寺の毘沙門天様(威光)を間近に拝顔させて頂くことができました。

第103回文化講座

尼僧様と語らう

2017年2月22日(水)
講師：曹洞宗の尼僧様

今回は、曹洞宗の尼僧様(女性の僧侶)お二人に、お話を伺いました。僧侶になられて三十五年の丸山劫外先生は各方面にて活躍中でありたくさんの著書出版されております。その劫外先生は、曹洞宗をお開きになられた道元禪師様が、日本各地の修行道場でお過ごしになられたときに詠まれた「和歌」を「道歌に学ぶ」と称して十一首の歌の紹介と解説をしてくださりました。どの歌も私共の暮らしに身近な歌を選び全ての物の命の大切さ、自然の移り変わり、その時々の心境、周囲の環境、状況等を解りやすく、楽しく、興味深くに解説お話しくださいました。

その中でだんだんと歳を重ねていく私の中で、今この句が一番大事な、必要かなと思えました。「いたずら



にすこす月日はおほけれど、道をもとむる時ぞすくなき」この句は時間は帰ってきませんよ、だから今ここ、この時間このときに与えられた事を大事にして過ごしましょう、何事も「あとでは」だめですよと今の私たちに教えてくださっている歌の

にありますが愛知専門僧堂)で学んでこられたときのお話をして下さいました。

修行とは、座禅やお経を読む特別なことばかりではなくまた難しいことをするのはなく「普通の事をどうする、この普通の事をどうに行うか」当たり前のことを当たり前に行うことの大切さ難しさを学びました。またヨーロッパ、アメリカ「ペンシルバニア」へ約二年間の修行に行きそこで暮らしをもご紹介下さり、アメリカでは、外国人の女性、男性のお坊さんのために仏教書の翻訳、お袈裟、衣、格子等の作り方の指導、また日本で修行して母国に戻られて仏教を広めようとして居る外国人の尼僧様が、住職になるための式、晋山式をするにあたりそのお手伝いをされてこられたお話をさせて頂いても興味深く拝聴致しました。

お陰様にて、充実した時を過ごしましたこと改めて、劫外先生、悠光先生に心より感謝申し上げます。
松井百合子